

手足口病に注意

警報
発令

どんな病気？

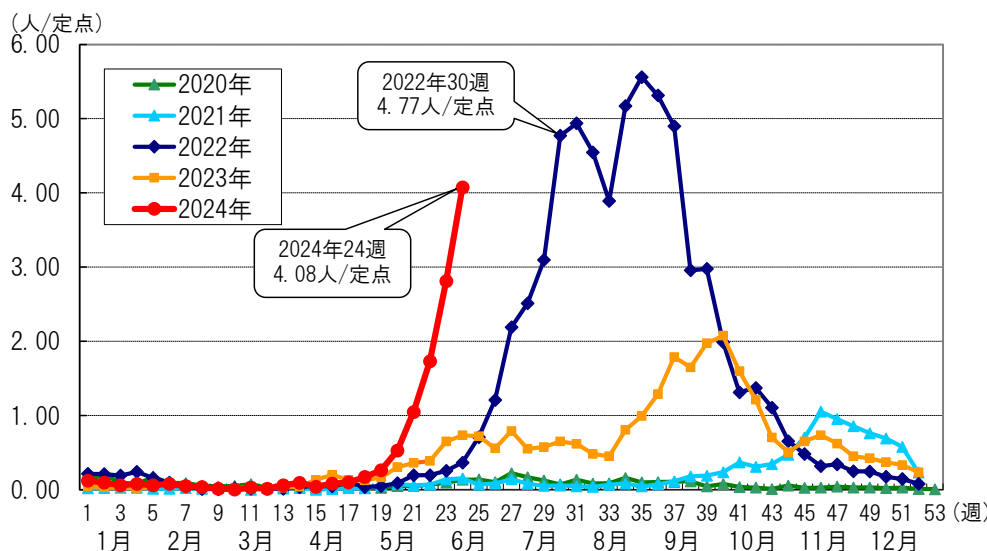
手足口病は、エンテロウイルス属のウイルスによって引き起こされる感染症で、5歳以下の乳幼児を中心に夏に流行する感染症です。主な症状は、口の中、手のひら、足の裏などにできる2～3mmの水疱性の発しんで、3～7日程度で消失します。その他には発熱、食欲不振、のどの痛みなどの症状がみられます。基本的に予後は良好ですが、合併症として稀に髄膜炎や脳炎を起こすこともあります。特別な治療法は無く、対症療法が中心になります

どうやってうつるの？

手足口病はウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸い込んだり、手についたウイルスが口に入ったりすることで感染します。症状がおさまった後も、患者さんの便の中にはウイルスが含まれます（2～4週間）ので、トイレ使用時やオムツ交換の際には注意が必要です。

どのくらい多いの？

手足口病は毎年夏に流行する感染症ですが、今シーズンは5月中旬ごろより全国的に増加傾向となり、東京でも5月中旬ごろより報告数が増加し始め、都内の小児科定点医療機関からの第24週（6月10日から16日）における患者報告数が都の警報基準を超え、大きな流行となっています。



どうやって防ぐの？

手足口病のワクチンはありません。

感染予防には、**流水と石けんでのごまめな手洗い**が有効で、トイレの後やオムツ交換の後、食事の前には手洗いを心掛け、タオルの共有は避けましょう。また、咳やくしゃみをする時には口と鼻をティッシュ等でおおう等、**咳エチケット**を心がけましょう。